

2021年度 学校関係者評価委員会 議事録

作成者（書記）：大西加恵

日時 2021年6月29日（火） 9：30～11：30

参加者 （評価委員）山本様（業界代表）、鈴木様（業界代表）、加賀崎様（業界代表）、
松本様（高等学校代表）、山田様（地域代表）島野様（保護者代表）
川面様(卒業生代表)
（学内関係者）青木、高平、小野、大西、前川、石岡、境野、飯塚

目的 職業実践専門課程における自己点検・自己評価に基づき、委員より客観的な意見を
伺うことで、実際の学校運営に活かす。
また、職業教育の水準の維持向上を図るために業界の方からの意見を伺い、教育課程に
反映させていく。

議題 1、はじめに
2、学校長挨拶
3、委員紹介
4、主旨説明・現状報告
5、令和3年度学校評価関係者評価対象の学校運営報告
自己点検・自己評価説明と意見交換
6、まとめ
7、事務連絡

1. はじめに

2 学校長挨拶

学科編成の歴史について

建学の理念（実学教育・人間教育・国際教育）について

新型コロナや自然災害など環境と時代の変化について

手洗いうがい消毒、検温の徹底、新しい生活様式に合わせた学校教育について

・衛生と健康について

4つの信頼について(学生・保護者・業界・地域)

学校法人名の変更(設置法人の変更)

3. 委員紹介・事務局紹介（小野より）・自己紹介

4. 主旨説明・現状報告（高平より）

委員会の位置づけとは

職業実践専門課程について(認定内容)

自己点検・自己評価においてご意見を頂く場

学校評価していただいた自己点検・自己評価を学校にフィードバックし、組織運営に生かす
取り組みを行っている。

学校での自己評価を行いPDCAサイクルをまわし自己点検を行う

学校関係者評価委員会のスケジュールについて(年1回)

教育課程編成委員会はカリキュラムについて点検を行う。(年2回)

・東京滋慶学園の沿革・組織目的について

時代によって学科編成や学校名学科名の変更を行っている。今後も時代のニーズに合わせた

学校を目指す。法人合併に伴い法人名変更

※2023年度に向けては、福祉とベルの一体運営に変更

また、さいたまIT・WEB専門学校の新設校立ち上げを予定している。

※2022年度は埼玉ベルエポックでの学校関係者・教育課程の運営になる

5、2021年度学校評価関係者評価対象の学校運営報告

組織目的の確認

・2020年度重点目標の振り返り（高平より）

【2020年度重点事項】

1. 学校の新設・分離と統合運営のイノベーション
2. 産官学教育連携イベントの運営
3. マネージャーの育成

【結果】

1. 「業務改善」と「行事削減」を実現して、広報に集中する環境を作る
→働き方改革の推進のため、チームで業務にあたる体制の構築ができた。
2. 「産学連携」を実教育の中心に据えたブランディングの構築を図る
→企業様からのご協力を多くいただき、商品開発に携わる機会が増え、学生への教育成果があがっている。

達成状況（教育数字）

■入学生 目標：180名 実績：138名

コロナの影響もあり、食分野

■退学者 目標：3.6% 実績：3.6%

■国家試験合格率 目標：100% 実績：84.6%

国家試験合格率については課題が残る結果となったが、卒業後もフォローを続けながら国家試験合格を目指す

■学校の新設・分離と統合運営のイノベーション

結果：◎(デジタルトランスフォーメーション)

■産官学教育連携イベントの運営

結果：×(コロナの影響もあり予定していたイベントなどの取り組みができなかった)

■マネージャーの育成

結果：△(外部を巻き込んでも育成研修を予定していたが実施できず、しかしオンラインでの研修なども増えてきている。)

・2021年度の重点項目

◆さいたまデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

◆コロナ禍・コロナ後の学科イノベーションと産学連携の強化

◆マネージャーの育成

・埼玉ベルエポック製菓調理専門学校について

認可校であること

学科について(調理師科・パティシエ科1年制の2つの学科で募集)

- ・建学の理念
- ・産学連携(業界コラボ授業など)
- ・事業計画について
- ・会議について
テレワークの推進により、自宅からの会議参加を認めている
- ・教育指導要領について
- ・情報公開について(HP からの閲覧が可能)
- ・授業アンケート
- ・学修成果について (資格取得・退学率・就職者率・離職率)
- ・学生支援について (サポートハンドブック・カウンセリングなど)
- ・就職支援体制について
- ・卒業後の支援について
- ・2021 年度から同窓会などの卒後支援を強化していく
- ・海外研修について
2019 年度は実施。2020 年度は中止
- ・安否確認システムについて
- ・災害時などの際に学生・職員の安否を確認
- ・教育の実践 I C T
- ・学生募集＝入学前教育
- ・財務について
- ・バランスシートについては情報公開に閲覧可能
- ・法令遵守について
- ・地域貢献について
- ・企業や行政からご依頼いただくことが増えてきた

【委員からのご意見、評価】

(山本様)

昨年、就職セミナーに参加をさせていただいたが、なかなかコミュニケーションをとることができなかったが、コロナが追い風になりアナログとデジタルが融合できるようになった。自分自身の世代は、アナログな考えが根付いているので、デジタルを理解し導入すれば良い。我々の仕事は、人の感覚を磨く職業なので、アナログ的な感覚を身につける今の若い人は、(コロナの時代は) 苦勞するかもしれない。

労務関係ではアウトソーシングの導入をしている。

大きな変革期に自分自身も変化が必要。しかし、人は大切であり労働者としての人の部分も必要(仕事をとおして人として成長できる人材教育を大切にしたい)。デジタルに人が動かされてはいけない。夢と現実の理解の上での学び(の環境)が必要。

(鈴木様)

スマホがないと学校生活がなりたない。

スマホだけではなく、現場に出るからはパソコン技術も必要となる。

学校では、パソコン技術向上はどのようにされているのか。

(小野)

現在、パソコン技術(表現)が課題。

現状、卒業制作の発表ツールを作成する過程で姉妹校の PC ルームを利用しパソコンの基本技術習得と、パワーポイントを中心にデバイスを活用している状態。食の分野でのパソコン技術の習得は課題が残る。

今後は、校舎内に PC ルームが設置されるので、パソコンの授業導入の検討をしたい。

(鈴木様)

現場は人材不足が課題である中で、入職3年以内のスタッフが早期離職となった時に再就職についての課題がある。学校としての取り組みは何かあるか？

(石岡)

当校離職率(卒業後1年以内)は、去年は6.7%。前年度は15%。

改善傾向ではある。しかし、課題はあるので在学中の働きかけと卒業後は、LINEでの個別サポートを強化してコミュニケーションの強化を行い離職を未然に防いでいく取り組みをしている

また、卒業生の再就職(転職)については個別にて行っている。

(加賀谷様)

1つめ、食の業界はコロナ禍で2極化していく①オートメーション化と②職人の腕を見せる以上の2点から、2つの視点での教育が必要ではないのか。

もしくは、どちらかに絞り込んでいくのか。

(高平)

今はデジタル化への対応は必要だが、アナログ視点の職人を育成していきたいと思っている学生・新生は作ることへの興味関心が高いので、作る技術についての育成を重要視していきたいと思う。

(加賀谷様)

安心した。今まで同様、専門学校では、腕を磨く技術をしっかりと強化してほしい。

(山本様)

離職率のことだけを考えるとリスクを追って就職をすることが難しくなる。マッチングが重要となってくる。ひとつの対応方法としては、先輩として背中を見せてほしい。リスクを背負って就職した卒業生が成長してくれると、それが学校の成果につながる。

(洋菓子協会の特別実習の講師が卒業生をアシスタントで同行させるなど)卒業生がリターンできる環境作りが出来ている。

(加賀谷様)

LINEでの出欠確認を行っているのか？(学校:出席確認は対面で実施している。LINEは欠席の連絡を入れる連絡ツールとして利用している。)

職場で最近多くなっているのは、出勤当日のシフト変更（欠席）連絡を LINE 等でする人が多くなってきたと感じる。個人の事情があつての変更と理解しているが、人材不足と働き方改革もあり、出勤調整が難しくなっているため、就職先(仕事)の上では、報告連絡相談は教育が必要と感じる。LINE での欠席連絡が当たり前という感覚を持って現場に送り出さない方が良いと思う。

(松本様)

コロナ禍で海外研修が実施することが困難な時代こそ、オンラインを活用して現地をつなぐことで、新たな国際教育の方法が生まれると思いますか、取り組まれていますか？

(小野)

埼玉としては取り組みができていない。
ただし、姉妹校での実績はあるので今年度は実施を検討したい。

(松本様)

業界や地域との信頼を得るために連携の強化を図っている。
4つの信頼による連携の成果が現れていると感じる。
職員に対しての研修制度も充実されており、教える人の質の向上に取り組まれている。
デジタル化が進んでいるが、感性も必要。バランスよく学ぶことが大切なので今後も引き続き改善に取り組んでほしい。

(山田様)

地域としては、自治会はボランティアなので組織としてはおろそかな部分も多いが、学校はしっかりとした組織で運営している。
人格の形成ができていないのか不安を感じる。デジタルばかりに頼ってしまうと人間力の向上がおろそかになってしまいがち。こんな時代だからこそ、心に残る教育が必要であると感じます。

(山本様)

生まれた時からスマートフォンやゲームに囲まれている子どもたちの世代は、新たな考え方があろうと思うが専門学校の教育は変えるところと変えないことがあっても良いと思う。

(島野様)

保護者からは、就職活動や仕事がすぐ気になる。学校の取り組みを保護者向けに知らせてほしい時がある。

(石岡)

離職状況については業種によって募集状況が変化しているので、学内での企業説明会や面接会等を前年度よりも早めに開催している。その為、内定についても少し前倒しではある。
コロナの中での就職活動とサポートについては、オンライン企業説明会や LINE を活用した就職情報連絡や個別就職対応を実施して接触機会を減少させている。

(島野様)

保護者宛に子どもたちの学びの配信があると安心する。

SNSを閲覧していると子どもの様子がわかって嬉しい。頻繁に更新されているが、もう少し保護者向けの内容を入れてくれるとありがたい。(保護者会も開催難しいと思うので)

(川面様)

学校は、在学中からすごく変化(進化)している。

再就職時にもサポートしてもらえる環境があり、自分も助かった。

デジタルに力をいれるだけでなく、いままでの学校としての良さも残してほしい。

接客業ではあるので人と人とのつながりを大切にしてほしい。

6、まとめ

(学校長)

本日はお忙しい中、本校のためにお時間を頂戴しありがとうございました。耳の痛い話もありましたが、今後も正直に運営していく事をお約束します。

就職に関してはコロナ禍で不安も多いと思いますが、全力で就職支援をまいります。

本日いただいたご意見は、学校運営にいかしてまいります。貴重なご意見をいただきありがとうございました。
